

平成18年のホタルイカ漁獲量の減少について

富山県水産試験場

研究員 南條 暢聡・内山 勇

1 背景・ねらい

ホタルイカは、富山県の水産業において重要な水産物である。平成18年のホタルイカ漁獲量（約580t）は、例年に比べて大きく減少した（過去10年の平均値：約1,870t）。この漁獲量減少に関して、水温等の海洋環境データと過去の漁獲量の関係に基づいて考察を行う。

2 成果の概要

(1) 富山湾のホタルイカ漁獲量と主産卵場と考えられる山陰・若狭沖の前年5月の水温環境は1990年以降の変動傾向が似ている(内山, 2005)。平成17年(2005年)の水温環境は水温14℃の等温線の張り出しが弱く、水温が低めだったとみられる。このことから、平成18年のホタルイカ漁獲量が少なかった要因として、産卵場の水温がホタルイカ資源にとって好適ではなかった可能性が考えられる。

参考文献：内山 勇 (2005) ホタルイカの漁獲量変動は海洋環境の変動に応答しているか？ 第1回日本水産学会中部支部大会要旨

(2) 富山県のホタルイカ漁獲量は、3～4月の富山県沿岸海域の水温が低いと少なくなる傾向がある。平成18年(2006年)も3～4月の水温は低く、漁獲量に影響を与えた可能性が考えられる。

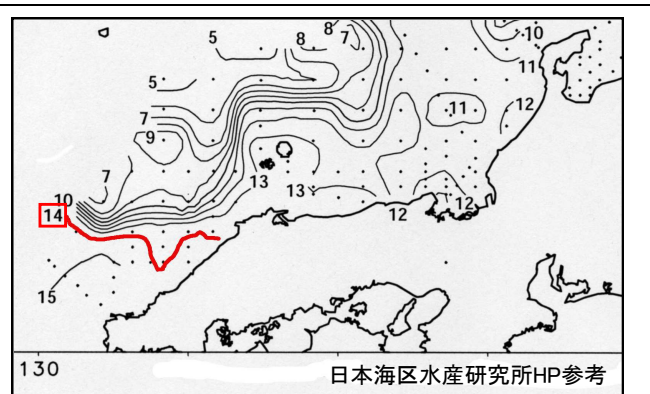


図 山陰若狭沖の水温環境
(H17年 5月 水深100m)

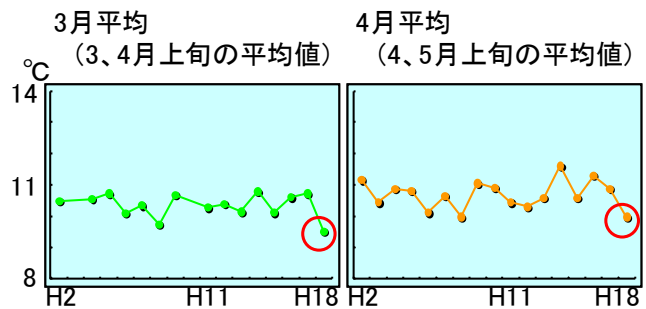


図 富山県沿岸平均水温

3 成果の活用面・留意点

得られた知見は、今後ホタルイカの漁獲量予測を行う際の基礎的な情報として活用する。

4 問い合わせ先

富山県水産試験場 漁業資源課
TEL 076-475-0036

担当：研究員 南條 暢聡

(参考) 具体的データ

(1) ホタルイカの年別漁獲量

平成18年(2006年)のホタルイカ漁獲量(約580t)は、例年に比べて大きく減少した(過去10年の平均値:約1,870t)。

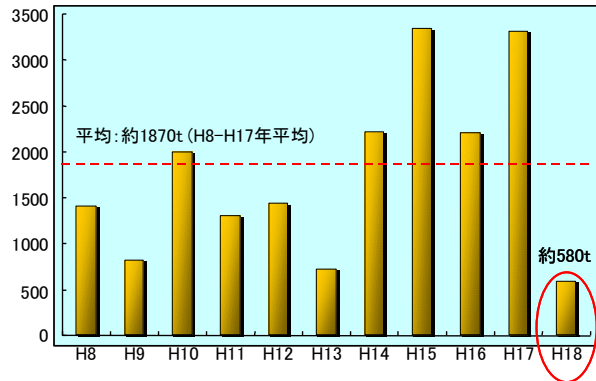


図1 ホタルイカの漁獲量

(2) 月別のホタルイカ漁獲量と山陰・若狭沖の水温環境

前年5月の山陰・若狭沖の水温環境を指標化した数値(水温14℃の等温線の張り出し具合)と富山県の3月、4月、5月のホタルイカ漁獲量との間には相関がみられた。

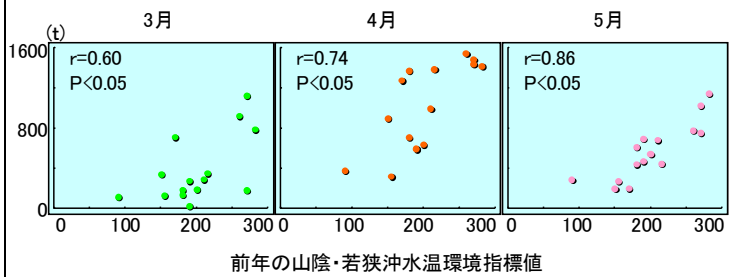
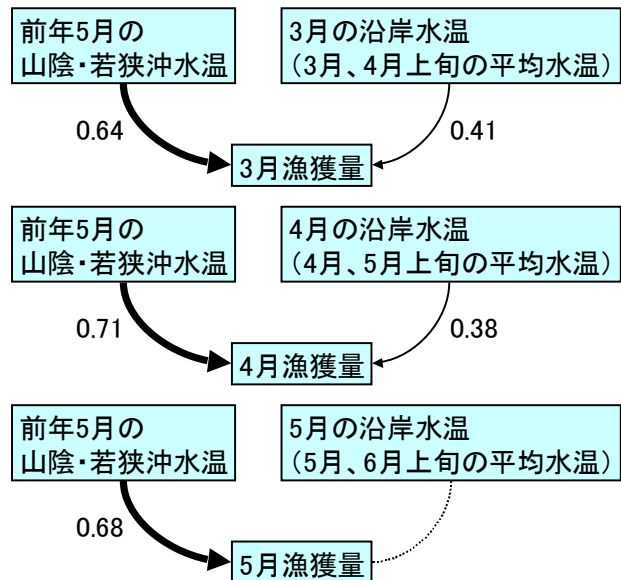


図2 月別ホタルイカ漁獲量と山陰・若狭沖の水温環境

(3) ホタルイカ漁獲量と水温の関係

富山県のホタルイカ漁獲量、山陰・若狭沖の水温環境、富山県沿岸海域の水温環境の関係を解析した。

富山県での3月、4月、5月のホタルイカ漁獲量は、前年5月の山陰・若狭沖の水温環境と変動傾向がよく似ており、水温が漁獲量に何らかの影響を与えていると考えられる。また、3月の沿岸水温(3月上旬と4月上旬の沿岸海域における水深10-150m層の平均水温)と3月の漁獲量も比較的似た傾向を示しており、沿岸海域の水温も漁獲量に多少影響を与えている可能性がある。同様に4月の沿岸水温も4月の漁獲量に影響を与えている可能性がある。



* 図中の数字が大きいほどデータの傾向が似ていることを示す

図3 ホタルイカ漁獲量と水温の関係図